

# 令和5年度第2回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策会議

## 議事概要

日 時：令和5年7月5日（水） 10:00～11:00

場 所：県庁6階 第2特別会議室

### ・会議の概要

#### <報告事項>

- ◇ (1) 県内及び全国における新型コロナウイルス感染症の発生状況等について
- ◇ (2) ワクチン接種等進捗状況報告について
- ◇ (3) RSウイルス感染症について
- ◇ (4) 小中学校および高等学校の学級閉鎖の状況について
- ◇ (5) TACOの状況について

#### <その他報告事項>

- ◇ (1) 地域医療に係るタスクフォース設置要綱、構成員
- ◇ (2) 「令和5年春開始接種」に係る資料の送付について
- ◇ (3) (検査目的での受診を控えることについて
- ◇ (4) 市町村への新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起について
- ◇ (5) 沖縄県医師会からの県民の皆さまへのお願い

## 1 参加者

池田 副知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、溜 知事公室長、  
森田 総務統括監、武田 企画調整統括監、宮平 子ども生活福祉部長、  
山田 教育管理統括監、松永 商工労働部長、本竹 病院事業局長、  
高江洲 文化スポーツ統括監、系数 保健医療部長、宮里 感染対策統括監

## 2 報告事項

### ➤ 保健医療部より報告事項 (1) ～ (3) について報告

- ✓ 資料1について、第25週(6/19～6/25)における定点報告数は2,132人となっている。定点あたりは39.48人となっている。これは前週より約1.37倍の増加となっている。全国の定点あたりは6.13人である。現在

集計中の第 26 週は第 25 週の定点当たりの数を上回る見込みである。図 1 のグラフに注目すると全国に比べて沖縄県は急激な伸びを示している。

- ✓ 保健所別定点報告数について、前週に比べ全ての保健所管内で増加している。定点当たりにおいては南部保健所管内が 50.79 と最も多くなっている。
- ✓ 年齢階級別定点当たり患者報告数について、第 25 週では 80 歳以上が最も多く、4.85 となっている。第 19 週から第 25 週までに注目すると、第 22 週・第 23 週以外は全て 80 歳以上が最も多くなっている。
- ✓ 療養状況について、新規入院者数は 1 日当たり 30 人台から 50 人台で推移している。19 日において 524 人だった入院者数は、25 日には 744 人となっている。重症者数は 11 人となっている。
- ✓ 確保病床の使用率について、県全体では 60%台半ばとなっている。本島地区では、70%に近づく状況となっている。
- ✓ 発生状況のトレンドを把握する参考指標について、第 25 週の新規報告数は、推計値では 10,000 人となっている。人口 10 万人当たりの新規報告数では 673.26 人となっている。
- ✓ 週当たりの新規入院者数について、第 21 週では一週間に 100 人の新規入院者数となっていた。第 25 週ではその 3 倍近い 296 人となっている。
- ✓ 定点医療機関の患者報告数のグラフについて、第 25 週では沖縄県が 39.48 人、全国が 6.13 人となっている。沖縄県が全国と比べ急激に伸びていることが見て取れる。また、沖縄県のグラフにおいて第 1 週目で高い山を描くピークがある。当時はまだ全数把握ではあるものの、定点把握に直すと 30%台半ばほどである。現在、その数を上回るような状況と

なっている。

- ✓ 確保病床の使用率のグラフについて、昨年は6月から7月にかけて横ばいになり、その後急激に使用率が増えている。今年度は5月ごろから使用率が急激に上昇しており、昨年の第7波を上回るペースで推移している。
- ✓ 全国都道府県別の定点当たりの報告数について、沖縄県は定点当たりの数が最も多く1位となっている。第25週では2位の鹿児島県が11.71人と10人を上回っている。続いて熊本県が8.75人となっている。
- ✓ 発熱コールセンターの入電総数について、6月の中旬までは1日に100件から200件弱の相談があった。6月の中旬以降では200件から300件と急速に入電総数が増えている。6月下旬から現在にかけては600件から700件の相談が寄せられている。
- ✓ ワクチン接種の状況について、7月2日時点の状況では接種率の1回目、2回目はともに70%台となっている。春開始の追加接種では65歳以上において26.2%となっている。春開始接種は5月8日から8月末まで、9月から12月末には秋開始接種を予定している。年代別ワクチン接種率について、追加接種については70代が30%台の接種率で、その上の年齢が20%台、60代が18.2%となっている。
- ✓ RSウイルスについて、現在、RSウイルス等の感染症が増えているということで、6月30日に沖縄県から注意喚起を発出した。RSウイルスにおいても新型コロナウイルスと同様に定点当たりの報告を求めており、第25週の定点当たりの報告数は4.35人であり、報告数は135人となっている。その他、子どもの呼吸器症状を起こすヒトメタニューモウイルスについても、医療機関から報告があり、複数の医療機関で患者が確認さ

れている。それぞれの感染症の感染予防策として手洗い、マスクの着用の重要性の周知を行った。

- ✓ RS ウイルスとは、乳幼児によく見られる感染症である。多くは生後1歳までに半数以上が感染し、2歳までにほぼ100%の乳幼児が感染するものである。感染経路は咳やくしゃみなどの飛沫感染に加え、口や鼻に触れる接触感染が存在する。潜伏期間は2日から8日で、主な臨床症状に発熱や鼻水、咳などがある。RS ウイルスは生涯にわたって感染を繰り返し、幼児期における再感染での発症はよくみられるが、多くは軽症となっている。
- ✓ 成人で感染した場合、通常は風邪症状のみだが、1歳未満の乳児、低出生体重児、心臓・肺などに基礎疾患のある小児、また、高齢者が感染した場合は重篤な症状を起こす可能性があり、注意が必要である。特別な治療法はなく症状に対する対処療法が行われる。基礎疾患のある人についてはパリビズマブ（抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体）等の治療薬を使用する場合がある。ワクチンは存在せず、ヒトメタニューモウイルスに関しても特別な治療が存在しないため、それぞれ予防策等の対応が必要である。
- ✓ RS ウイルスの流行状況について、第25週では135人で、内訳は1歳代が最も多く、続いて生後5か月、生後11か月と乳幼児で広く感染が見られる。

➤ 病院事業局から報告

- ✓ 7月4日火曜日時点での県立病院の入院患者数は全体で132人である。前回5月26日報告より78人増となっている。県立病院が現在確保しているコロナ病床の使用率は93.6%である。県立病院においてRSウイルスと新型コロナウイルスに重複感染した事例は、把握している範囲では南部医療センター子供医療センターの1件である。
- ✓ 県立病院の救急室の受診者数は、ゴールデンウィークをピークに一旦減少したが、5月中旬ごろから徐々に増加し、6月下旬には、ゴールデンウィークと同等またはそれ以上の水準まで増加した。
- ✓ 県立病院職員のコロナ関連による休業者は5月中旬ごろから増加し、7月4日時点では261人で、今年最大であった1月11日の167人を超え最大の人数となっている。
- ✓ 職員の休業者の増加等により、現在中部病院及び南部医療センター子供医療センターが、救急診療及び一般診療の制限を行っており、宮古病院が一般診療の制限を行っている。

➤ 教育長より報告事項(4)について報告

- ✓ 新型コロナウイルス感染症による県内公立学校の臨時休業の状況について、7月4日17時時点で学年閉鎖が1件、学級閉鎖が13件となっている。内訳は小学校において3校で5学級、公立中学校において学級閉鎖が1校で2学級である。県立高等学校では学年閉鎖が1校で1学年、学級閉鎖が4校で6学級となっている。県立の特別支援学校では学級閉鎖等はなかった。

- ✓ 学校においては、健康観察や換気の確保、手洗い等、基本的な感染対策に加えて、感染が流行している場合は適宜学級閉鎖等を行っている。県教育委員会としては、引き続き、市町村教育委員会や学校と連携をし、基本的な感染防止対策の徹底に努めていく。

✓

➤ 総務部より報告事項（4）について報告

- ✓ 7月3日 17 時時点の県内の私立小中高等学校の学級閉鎖数については、0件となっている。参考資料について、直近の1週間では、2校、4学級の学級閉鎖を確認している。

➤ 文化観光スポーツ部より報告事項（5）について報告

- ✓ 旅行者専用相談センター沖縄 TACO の状況について、5月26日から7月2日までの37日間を集計している。空港における体調不良者数と問診実施件数はともに0人であった。電話対応件数が53人、うち健康相談が28人となっている。
- ✓ 主な問い合わせ内容について、受診ができる病院、小児科、に関する問い合わせが多く、合わせて PCR 検査場所や抗原キットが購入可能な薬局に関する問い合わせがある。
- ✓ 5類移行に伴う相談内容等の変化は特にない。PCR 検査センターへの案内のトラブルも発生していないが、6月中旬ごろから電話対応相談件数が増加傾向にある。直近1週間では53件で1日当たり3件、30日平均が1.4件となっており、1日当たり3件と増加傾向にある。

- ✓ 感染拡大を受け、観光業界等へ文化観光スポーツ部の方から注意喚起の再周知を行った。県ホームページ等を活用して、旅行前、旅行中、旅行後の基本的な感染対策の案内と周知を行った。

➤ 報告事項に関する補足説明・質疑応答等

- ✓ （池田副知事）資料3について、一般の方々には週の記事はなじみがないため、日付も表記すべきである。
- ✓ RS ウイルスの感染の確認はどのような形で行われているのか。  
→検査キットを用いて陽性か陰性かを判断している。
- ✓ 乳幼児感染症のヘルパンギーナが全国的に流行っているそうだが、県内の感染状況はどうなっているのか。  
→最新のもので定点当たり0.45人となっている。6人を超えるラインが警報の基準となっている。全国18の機関で増加の報告があるが、沖縄県においては増加がみられない状況である。
- ✓ （病院事業局）RS ウイルス、ヘルパンギーナについて、この3年、感染する機会がなく抗体ができていないことが原因ではないかと言われている。母体にも抗体がなく、垂直の抗体を得る機会がなかったことも原因だと考えている。その他のウイルスについても同様の状況である可能性が高いと考えられる。
- ✓ （池田副知事）RS ウイルスに関して、新型コロナウイルスにおける高齢者施設の手当てなどはもちろんだが、小児医療の体制にも取り組んでいくべきである。

### 3 その他の報告事項

#### ➤ 保健医療部より報告

- ✓ その他資料①について、地域医療提供に係るタスクフォースの設置要綱となっている。
- ✓ 第1条の目的について、地域医療に関して足元で起きている事象について機動的に対応するため、各分野の専門家と情報共有や意見交換により必要な意見を聴取する目的で設置している。
- ✓ 第2条の構成員について、保健医療部長が掲げる分野から、公衆衛生、救急、地域医療、医療関係団体、その他保健医療部長が必要と認める者としている。
- ✓ 第3条の活動内容について、医療の逼迫状況をアセスメントする機能、医療逼迫を回避、軽減する方策を検討する機能、行政と医療、介護現場と調整する機能、その他対策を実施するために必要な事項の検討を行う。
- ✓ 構成員は系数保健医療部長、国吉中部保健所長、赤十字病院第一救急部長の佐々木先生、県立中部病院感染症内科副部長の高山先生、県医師会副会長の田名先生となっている。
- ✓ その他資料②について、令和5年春開始接種の資料となっている。

「令和5年春開始接種」に係る資料の送付については、定点当たりの報告数が増え、感染が急速に拡大していることを受け、春開始接種の対象者等を記載している。重症化予防等の観点から、高齢者等重症化リスクの高い方について、ワクチンの接種を検討いただくために各部局から関係団体等に対して、別添資料を送付いただくよう依頼をしている。

- ✓ その他資料③について、保健医療部から各部長宛に検査及び診断書を目的とした受診を控えることについて周知依頼したのとなっている。感染拡大により医療提供体制の維持に懸念が生じており、医療逼迫の回避のため、新型コロナの感染が疑われる場合の検査は民間のPCR検査センター、或いは市販の医療用の抗原検査キットの活用を検討いただき、検査や、診断書目的の受診は控えていただくよう、関係団体等への周知を依頼している。
- ✓ 県内事業者にも各部の関係団体を通じて協力依頼を出しており、感染に伴う欠勤に際しては、診断書を求めている事業者において、検査キットの撮影画像などで確認するといった柔軟な対応をご検討くださるよう依頼している。学校に関しても新型コロナウイルスに感染した場合にて検査結果を証明する書類の提出は不要と周知している。
- ✓ その他資料④について、7月4日付で出した新型コロナ感染症に係る注意喚起のとして市町村あて依頼したのとなっている。急速な感染拡大を受けて、病院での診療制限など大きな負荷がかかっており、感染を防ぐための注意喚起を呼びかけている。具体的には、県がこれまで周知してきた感染拡大を防ぐためのお願い、救急医療を守るためのお願い、療養期間の考え方となっている。
- ✓ その他資料⑤について、県医師会の記者会見におけるコメントとなっている。新型コロナウイルスの急速な感染拡大に加えて、RSウイルスなどの感染症による重症例の増加、交通事故等による救急受診も増加する現状を踏まえて、体調不良時は仕事を休み外出を控える、或いは医療機関、高齢者施設へ行く際のマスク着用などを呼びかけ

ている。救急医療が困難に陥っているということで、発熱がある場合には、すぐに救急外来を受診するのではなく、日中のうちにかかりつけ医に相談し、検査目的の受診はやめていただきたいといったことも、県医師会から呼びかけている。

- ✓ 県の薬剤師会においても感染拡大に伴い会見を開いており、従来から県薬剤師会のホームページで医療用の抗原キットの販売薬局の一覧や解熱鎮痛剤リストなどを掲載していることを改めて周知している。また、抗原キット、或いは解熱鎮痛薬等をあらかじめ準備いただくよう呼びかけている。

➤ 補足説明や質疑応答等

- ✓ (保健医療部) 前回の会議は5月29日に行い、それに伴い知事からコメントを発出して注意喚起をしていた。6月中旬からの急速な伸びを受け、タスクフォースを設置して様々な対策について関係機関も協力して取り組んでいる。感染の影響はまだピークを越えていないのではないかということで高齢者施設への対策についても検討している。

感染者ケアステーションも稼働しており、今日は14人入っている。病院でベッドが空いていないケースを減らすため、救急に殺到しないように取り組んでおり、関係機関への周知をご協力お願いしたい。

- ✓ (政策調整監) その他資料⑤に第9波とあるが、すでに第9波に入っているのか。

→県としてはまだ正式にコメント等はしていないため、あくまで医

師会の解釈である。定点当たりの患者報告数が第8波に相当する、ということを見ると、実質は同じような流行の中にいると理解している。

- ✓ （病院事業局）現在の流行の増加が今後下がることで波の形となるのは間違いない。医師会は注意喚起として、あらかじめこれは波であると警戒を促すため、このような表現をしている。
- ✓ （池田副知事）仕事を休むために救急受診をするのは本末転倒であり、それぞれの部局において関連団体の会長や幹部にも連絡して診断目的あるいは職員の休暇の確認のための病院受診を控えることの周知徹底をお願いしたい。

閉会